

# vision

2013 冬号 VOLUME 36  
http://www.kadokawa.co.jp/

メガコンテンツ・パブリッシャーとして、  
さらなる成長を目指す。

新しい物語をつくろう。



# KADOKAWA



## Ranking 第2四半期(7月から9月)の主なヒット作品

### シリーズ

- 1 「カゲロウデイズ」シリーズ
- 2 「ソードアート・オンライン」シリーズ
- 3 「東京レイヴンズ」シリーズ

### 一般書

- 1 日本人の知らない日本語4 海外編
- 2 シャボンだまのきせき
- 3 真・女神転生IV 公式コンプリートガイド

### 文庫

- 1 マリアビートル
- 2 心霊探偵八雲 ANOTHER FILES いつわりの樹
- 3 零戦 その誕生と栄光の記録

### ライトノベル

- 1 ソードアート・オンライン13 リンゼーション・ディバイディング
- 2 カゲロウデイズIVー the missing childrenー
- 3 僕は友達が少ない(9)

### コミックス

- 1 とある科学の超電磁砲(9)
- 2 デッドマン・ワンダーランド(13)
- 3 世界一初恋 ～小野寺律の場合8～

### 映像パッケージ

- 1 ライジング・ドラゴン
- 2 デート・ア・ライブ
- 3 僕は友達が少ないNEXT

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店までお支払いいたします。

株式会社KADOKAWAのホームページはIR・財務情報に加え、皆さまにKADOKAWAグループの事業内容をより深くご理解いただけるよう、グループ各社の最新情報や話題、事業展開などを掲載しています。ぜひご覧くださいませようお願い申し上げます。

<http://www.kadokawa.co.jp/>



# KADOKAWA

KADOKAWA CORPORATION  
株式会社 KADOKAWA

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3  
電話 03-3238-8411



## 社長メッセージ



代表取締役社長  
佐藤 辰男  
Tatsuo Sato

常に飛躍と改革を目指し、  
新たな成長戦略を打ち出していきます。

「新しい物語をつくろう。」KADOKAWAは子会社9社との合併を機にCI(コーポレートアイデンティティ)を実施いたしました。コーポレートロゴとキャッチフレーズの制定については、社員全員で知恵を絞り決定したものです。今後もブランドカンパニーという新しい組織体として継続するアスキー・メディアワークスや角川書店などとともに、KADOKAWAも新しいブランドとして皆さまに育んでいただきたく思います。

2014年3月期第2四半期の業績は、シネコン事業からの撤退や、一部ライセンス事業の契約終了などが主な減収の要因となりましたが、これは中長期的な成長を目指すうえでの「選択と集中」による事業再編の結果であり、より成長性、収益性の高い事業を育て、経営資源を集中させていくことが肝要であると判断いたしました。

出版事業においても、コミックの新たな成長のため、新規作品の創出をグループの総力をあげて行なう新規事業の準備を進めています。一時的に刊行点数や売上の減少といった痛みは伴いますが、再び成長基調に復活できると考えています。

「グローバルに活躍するエンターテインメント企業」、「デジタルネイティブが大半を占める時代のデジタルプラットフォーマー」を目指すべく大きな改革に踏み切ったKADOKAWA。新たなスタートを切ってから、2ヵ月が経過しました。そこで、新生KADOKAWAの近況についてご報告いたします。

アスキー・メディアワークス、角川書店、メディアファクトリーなどのブランドカンパニーは、エンターテインメント・コンテンツクリエイション事業統括本部に所属し、個性豊かなIPを創出しながらも、規模のメリットを活かし、より大きな事業展開を見据えることによって、従来の個社の枠組みを超えたダイナミックなIPの創出に挑戦を始めています。また、エンターブレイン、角川マガジンスは、メディア&インフォ

メーション事業統括本部に所属し、広範囲にわたってメディア展開する一方で、これまで培ってきた情報集約力、ノウハウを結集し、雑誌ブランドから新たなネットサービスを創出し、紙とデジタルの融合であらゆるチャンネルを対象とした情報事業を展開しています。

また統合に伴い、営業の一本化、広告の一本化、宣伝の一本化が実現しました。セールスマーケティング統括本部では、営業、物流、資材調達などの機能をひとつに集約し事業展開しています。また、広告営業については、総合広告本部が中心となり全媒体に横串を通した営業による強化を図っています。宣伝についても、総合宣伝本部が全社横断的なプロモーション展開を実現させ、早くも統合による成果が出てきていると感じています。

今後の成長にとって中核となるIP事業統括本部は、対外的

な権利交渉の窓口、メディアミックス展開に合わせた世界的な販売施策の立案、IP事業領域の拡大など、グループ内に分散していた機能を集約するという重要な役割を担っており、今後は全社で取り組むIPの選定、育成も行なっていきます。

これまでは、出版から映像という形でIPを展開してきましたが、『艦隊これくしょん -艦これ-』の例を見るように、様々な入口があって、多彩なIPを展開していくことがKADOKAWAの新しい姿です。出版の枠にとらわれない、自由でダイナミックなIPの創造と展開を目指します。

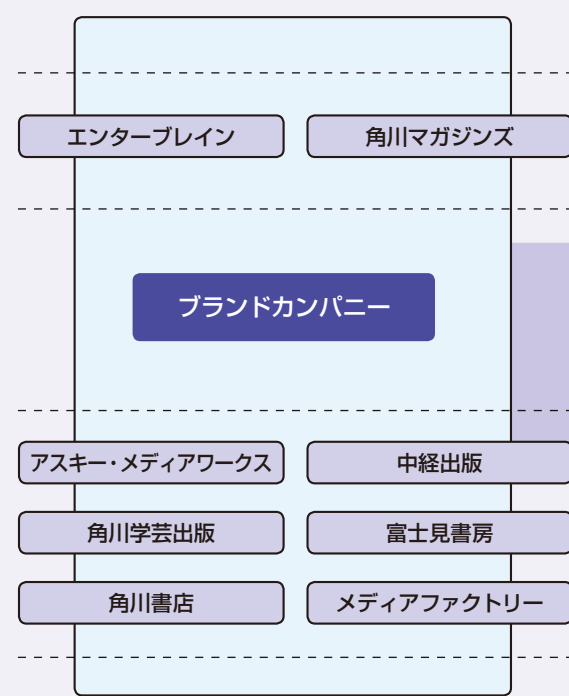
海外展開については、ASEANを中心に現地法人設立を準備しています。台湾、香港、広州での成功モデルをASEAN地域に横展開しながら、新規事業の開発にも取り組みます。また、アジアにおいて日本のコンテンツ制作ノウハウを現地の若者に提供するために、学校事業を展開する会社を10月に

設立しました。来期には、台湾、シンガポールで開校するべく準備が進んでいます。アジア新興国市場は大きく成長しており、特に中間所得層が拡大しています。日本のライトノベル、コミックスファンが増加することが想定されるなか、早期にKADOKAWAのファンを育てていくことも視野に入れていきます。ライトノベル作家、漫画家、キャラクターデザイナー、声優、アニメーターなどの人材が育てば、海外展開の大きな力になるものと期待しています。

KADOKAWAは常に飛躍と改革を目指し、新たな成長戦略を打ち出しています。株主の皆さまにおかれましても、どうか変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



## 総合力での挑戦 (ワンカンパニー体制)



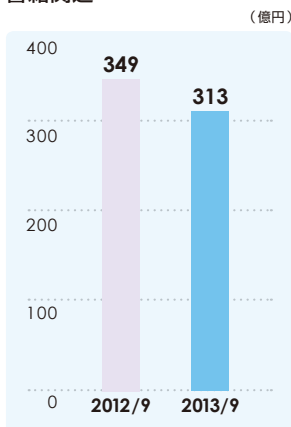
- ・ブランドを守り、さらに活性化するためのブランドカンパニー制の導入。
- ・ブランドカンパニーが産み出したコンテンツを、グループ一体となって展開する仕組みへの挑戦。
- ・IP事業統括本部・海外事業統括本部を軸に、コンテンツをマルチユースし、大きなビジネスに挑む。

※1 メディア&インフォメーション事業統括本部  
※2 エンターテインメント・コンテンツクリエイション事業統括本部

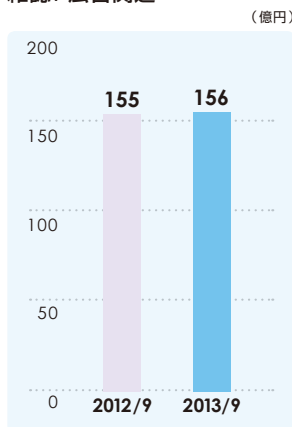


## 分野別売上高 (第2四半期)

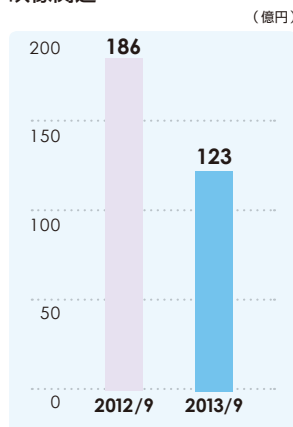
### 書籍関連



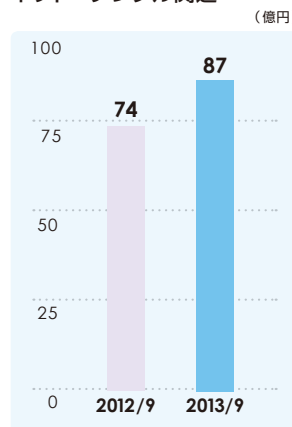
### 雑誌/広告関連



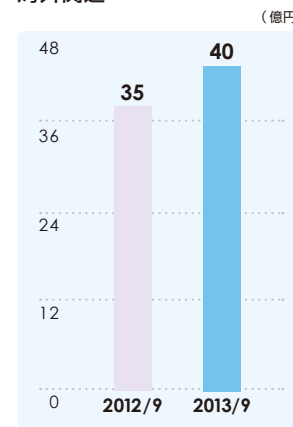
### 映像関連



### ネット・デジタル関連



### 海外関連



### 書籍関連

メディアミックス作品の拡販、新規ジャンルの開拓、既存メディアにとどまらない新たな才能の発掘を進めています。次期主力作品の育成と収益性の改善に取り組んでいるコミック部門で売上高の減少はありますが、概ね堅調に推移しています。

### 雑誌/広告関連

固定費の削減や不採算部門の整理を進める一方、急速に普及しているスマートフォン向け新サービスの開発や、2013年3月に(株)ドワンゴとの合併会社として発足した(株)スマイルエッジにおいて、ネット上の新たな広告ビジネスへの取り組みを始めています。

### 映像関連

シネコン事業の売却や、パッケージ、配給ともに比較的小型の作品が多かったことから、売上高は前年同期比較で減少していますが、経営資源をコンテンツ制作にシフトし、費用管理も厳密にすることで、黒字基調はより強固なものになりました。

### ネット・デジタル関連

電子書籍への取り組みを加速させ、紙の書籍との同時発売比率のアップや積極的なキャンペーン展開によって売上高をさらに伸ばしています。投入作品数増進のプロジェクトを設け、書籍の電子化をさらに加速させています。またBOOK☆WALKERには、作品を提供する出版社数がさらに増え、業界インフラとしての地位を固めています。

### 海外関連

台湾の出版事業が堅調に推移し、香港のエンターテインメント事業も堅調に推移していますが、より成長性の高い地域や事業内容へシフトすることによって海外事業を拡大するため、現地の連結子会社を売却しました。



## 決算のご報告（第2四半期） 連結財務諸表（要旨）

### 四半期連結貸借対照表

|         |      | 単位：百万円                   |                    |
|---------|------|--------------------------|--------------------|
|         |      | 第60期 第2四半期<br>2013年9月30日 | 第59期<br>2013年3月31日 |
| 資産の部    | 流動資産 | 82,963                   | 83,262             |
|         | 固定資産 | 56,244                   | 56,636             |
| 資産合計    |      | 139,208                  | 139,898            |
| 負債の部    | 流動負債 | 30,637                   | 35,270             |
|         | 固定負債 | 12,796                   | 17,082             |
| 負債合計    |      | 43,433                   | 52,353             |
| 純資産の部   | 株主資本 | 90,934                   | 84,561             |
|         | その他  | 4,840                    | 2,984              |
| 純資産合計   |      | 95,774                   | 87,545             |
| 負債純資産合計 |      | 139,208                  | 139,898            |

### 四半期連結損益計算書

|              |  | 単位：百万円                             |                                    |
|--------------|--|------------------------------------|------------------------------------|
|              |  | 第60期 第2四半期<br>2013年4月1日～2013年9月30日 | 第59期 第2四半期<br>2012年4月1日～2012年9月30日 |
| 売上高          |  | 72,203                             | 80,125                             |
| 売上原価         |  | 52,381                             | 59,698                             |
| 売上総利益        |  | 19,822                             | 20,427                             |
| 販売費及び一般管理費   |  | 17,006                             | 16,635                             |
| 営業利益         |  | 2,816                              | 3,792                              |
| 営業外収益        |  | 754                                | 634                                |
| 営業外費用        |  | 69                                 | 69                                 |
| 経常利益         |  | 3,501                              | 4,357                              |
| 特別利益         |  | 2,826                              | 116                                |
| 特別損失         |  | 526                                | 1,722                              |
| 税金等調整前四半期純利益 |  | 5,801                              | 2,751                              |
| 四半期純利益       |  | 3,787                              | 1,601                              |

#### 売上高、営業利益について

- ・出版や映像事業において売上高の減少がありましたが、ともに、大型作品が下期に集中していることやシネコン事業からの撤退などによるもので、全体としては概ね順調に推移しています。
- ・営業利益については、出版事業における減少はありますが、映像事業の黒字化で安定した利益を確保することができました。

#### 経営利益、四半期純利益について

- ・ドコモアニメストアはじめ持分法適用会社からの利益寄与が貢献いたしました。また、海外の連結子会社売却等により特別利益が2,826百万円となりました。法人税等が1,461百万円となった結果、四半期純利益は3,787百万円となりました。



## 会社役員

|         |           |
|---------|-----------|
| 取締役会長   | 角川 歴彦     |
| 代表取締役社長 | 佐藤 辰男     |
| 代表取締役専務 | 井上 伸一郎    |
| 常務取締役   | 谷口 常雄     |
|         | 松原 眞樹     |
|         | 関谷 幸一     |
|         | 瀧村 弘一     |
| 取締役     | 高野 渥      |
|         | 山口 貴      |
|         | 塚本 進      |
|         | 太田 修      |
|         | 芳原 世幸     |
|         | 秋山 伴道     |
|         | 水島 真      |
|         | 安田 猛      |
|         | 横沢 隆      |
|         | 椎名 保（相談役） |
|         | 川上 量生     |



## プレゼントのお知らせ

今回は、オンライン券購入専用のプリペイドカード「ムビチケオンラインGIFTカード」2,800円券を抽選で10名様にプレゼントいたします。

ご希望の方は、「株主通信vision」の感想や経営に関するご質問とともに、お名前、ご住所、お電話番号をご記入のうえ、ご応募ください。



### 「ムビチケオンライン GIFT カード」10名様

#### ムビチケオンラインGIFTカードとは

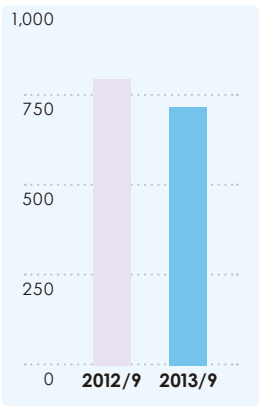
これまでの映画前売券は電算できる作品が限定された作品ごとの前売券でしたが、「ムビチケオンラインGIFTカード」は、ムビチケのホームページ上で販売されている作品を自由に選んでご鑑賞いただけるオンライン券購入専用のプリペイドカードです。

ムビチケ <http://www.movieticket.jp/>

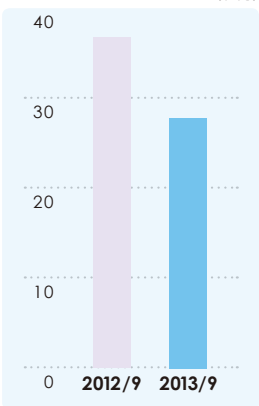
●あて先 〒102-8177 東京都千代田区富士見 2-13-3 株式会社 KADOKAWA IR・広報部「プレゼント」係 ●応募締切り 2014 年 1 月 10 日（金）（消印有効）

※当選者は発表をもって代えさせていただきます。なお、取得した個人情報に当選者の方に商品を送送するために使用し、他の目的では使用いたしません。

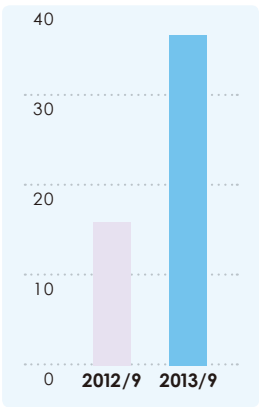
### 売上高



### 営業利益



### 四半期純利益



2012年9月6日発売  
沿線：東急東横線、東急目黒線、JR武蔵線、JR横濱線、JR湘南新幹ライン



2012年12月21日発売  
沿線：JR中央線



2013年1月29日発売  
沿線：地下鉄有楽町線、都営大江戸線、ゆりかもめ



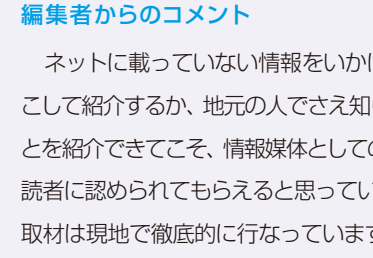
2013年1月31日発売  
沿線：JR有楽町線、JR京浜東北線、JR宇都宮線、JR高崎線、JR新宿湘南ライン



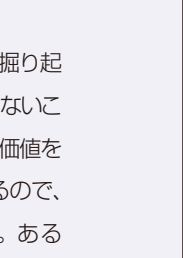
2013年2月15日発売  
沿線：JR京浜東北線、東急池上線、東急多摩川線、京急本線、京急空港線



2013年2月28日発売  
沿線：JR京浜東北線、東急大井町線、りんかい線



2013年3月28日発売  
沿線：西武有楽町線



2013年4月19日発売  
沿線：JR中央線、JR総武線、地下鉄丸ノ内線



2013年4月26日発売  
沿線：京王線、京王相模原線



2013年5月17日発売  
沿線：小田急線



2013年5月31日発売  
沿線：JR中央線、JR総武線、地下鉄東西線



2013年6月14日発売  
沿線：JR総武線、東武東上線



2013年7月4日発売  
沿線：東武東上線



2013年7月10日発売  
沿線：JR常磐線



2013年7月29日発売  
沿線：地下鉄東西線、都営大江戸線



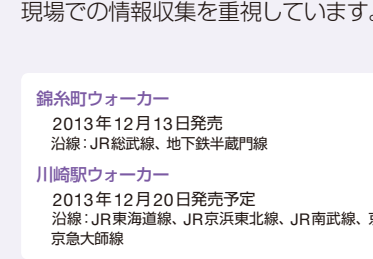
2013年8月23日発売  
沿線：小田急線、地下鉄千代田線



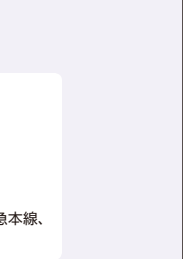
2013年8月29日発売  
沿線：東急東横線、地下鉄日比谷線



2013年8月30日発売  
沿線：西武池袋線、西武有楽町線、西武豊島線、都営大江戸線



2013年9月12日発売  
沿線：東急田園都市線、JR南武線



2013年9月20日発売  
沿線：東急目黒線



2013年9月20日発売  
沿線：JR中央線、JR総武線、地下鉄丸ノ内線



2013年9月20日発売  
沿線：JR山手線、JR京浜東北線、JR常磐線、京成本線、日暮里・舎人ライナー



2013年9月20日発売  
沿線：東急田園都市線



2013年9月20日発売  
沿線：JR山手線、JR京浜東北線、JR常磐線、京成本線、日暮里・舎人ライナー

2013年10月25日発売  
沿線：JR山手線、都営三田線、都営丸根線

2013年11月15日発売  
沿線：JR中央線、JR総武線、地下鉄丸ノ内線



## 製作の現場から「ひと駅ウォーカー」 角川マガジンス ブランドカンパニー

東日本エリア情報局 増刊編集部 課長 矢野高宗

2012年9月に刊行した「武蔵小杉ウォーカー」から始まった「ひと駅ウォーカー」シリーズは首都圏の駅を中心としたきわめて狭いエリアの情報を掘り下げることで、着実な成果を示してきました。現在、累計刊行点数は24点(2013年11月30日現在)となりました。

## TOPICS

### KADOKAWAのWEB&メールマガジン配信サービス「ちよくマガ」好評配信中！



<http://chokumaga.com/>

角川マガジンスは「ココだけで読める」話を集めた「ちよくマガ」の配信を7月1日より開始しました。「ちよくマガ」は、作家や評論家から映画監督、イラストレーター、タレントまで多彩なジャンルの著者を揃え、読者のための書下ろし記事を有料で提供する、Web&メールマガジン配信サービスです。

現役官僚・中野剛志さんが読者とともに混迷する世相を検証する「無双！中野学校」、本とコミックの情報誌「ダ・ヴィンチ」編集者の「ダ・ヴィンチレター」、『東海 Walker』発・みうらじゅんさんの「おい、そんなこと言ったっけ？」など多彩な内容で好評配信中。

プロの編集力を通じた読み応えのある良質な記事をお届けするのは、「ちよくマガ」だけです。

### 創刊26年目を迎える音楽情報誌

「CD&DLでーた」が大幅にリニューアルエンターブレインの音楽情報誌「CD&DLでーた」は、7月13日発売の8月号より、「音楽がもっと好きになる雑誌」をコンセプトにリニューアルしました。

内容面では、まず特集記事に重点を置き、毎月2～3本、音楽周辺のトピックを編集部独自の切り口で紹介。例えば、8月号の特集の

ひとつ、「歌姫の歌詞に学ぶ「女子力」アップ法!」では、女性アーティストの歌詞から現代の女性像を探っています。また、全インタビューページに作品リポートレビューを導入しました。さらに、カバーデザインも、ダンかつ遊び心溢れる方向にイメージチェンジ。8月号のカバーには韓国発の人気ユニット・東方神起を起用しました。今後も、読者の音楽に対する興味をより喚起すべく誌面作りを行なっています。

### 「アスキークラウド」創刊記念シンポジウムをニコニコ生放送で放送

アスキー・メディアワークスでは、「アスキークラウド」創刊を記念したシンポジウム「どーする!? どーなる!? スマートテレビ「グーグルも狙うテレビ業界」と題した番組を、7月30日にニコニコ生放送で放送しました。番組では、角川歴彦会長、中野克平・アスキークラウド編集長がMC役を務め、情報通信総合研究所・志村一隆氏、総務省情報流通行政局・小笠原陽一氏、(株)ドワンゴ代表取締役会長・川上量生氏の3氏がゲスト読者として登場。「アスキークラウド」創刊号で特集したテレビ業界について、3部構成で熱い議論を交わしました。1時間強のテーマを絞った番組にもかかわらず、約2万人が番組を視聴。次回開催を期待する声も多数寄せられました。

### 8月23日 MFブックス創刊！

メディアファクトリーは、アニメ、ドラマCD、ゲームなどのコンテンツビジネスを手掛ける(株)フロンティアワークスとの共同プロジェクトとして、新しい小説レーベルである「MFブックス」を8月23日に創刊しました。「MFブックス」は、ライトノベルより上の世代の読者層開拓を目指し、30代～40代男性をメインターゲットとした大人が楽しめるエンターテインメント小説です。創刊タイトルは、『盾の勇者の成り上がり』『ライオットグラフィ』『詰めかき転生領土の改革』の3タイトル。皆さまぜひよろしくお願いします。



### 貞子が石原環境大臣を表敬訪問



ナゴヤドーム、西武ドームでの始球式、渋谷での握手会など、パワフルな活動を行ってきた貞子は、環境省の「クールシェア」を応援する「貞子きっとクール計画」を実行。貞子入りキャンペーンロゴの普及や、7月7日のクールアース・イベントを皮切りに、様々な企業に「クールシェア」を推奨してきました。そして、9月2日、活動報告を兼ね、貞子は英勉監督とともに、石原伸晃環境大臣への表敬訪問を行いました。

大勢のマスコミが駆けつけた環境大臣室に入室するやいなや、貞子が石原大臣に飛びかかる。ところを英勉監督が制止する(ワォーマンスに、石原大臣も相当どきどきされていたようです。なお、映画「貞子3D2」は8月30日に好調なスタートを切り、特に劇場で世界初の取り組みである「スマ4D」版を体験した方の好評コメントがTwitterなどで多数書き込まれ、話題性も高まりました。

### 数々の謎に包まれているふなっしーの秘密が明らかに！

「ゆるキャラらしくない俊敏な動きが不気味」と昨今人気がうなぎ登り中の船橋市非公認シンボルキャラクターふなっしー。8月6日に行われた日本百貨店協会主催の「ご当地キャラ総選挙2013」決勝大会では見事優勝を果たしました。話題のふなっしー初の公式本が富士見書房から発売されました。本書ではふなっしーの

普段見られない表情や迷言、そして解剖図なども収録された豪華な一冊となっています。

### 「KADOKAWA GAME STUDIO MEDIA BRIEFING 2013 AUTUMN」

角川ゲームスは9月26日、東京国際フォーラムにて、「KADOKAWA GAME STUDIO MEDIA BRIEFING 2013 AUTUMN」を開催。「KADOKAWA GAME STUDIO」設立や新作ゲームの発表などを行ないました。話題の「艦隊これくしょん -艦これ-」はアニメ化企画が進行していること、またPlayStation®Vita版が2014年に発売予定であることが発表されました。

また、この日発表された新作ゲームはPlayStation®4／PlayStation®3／PlayStation®Vita用「NATURAL

### 編集者からのコメント

ネットに載っていない情報をいかに掘り起こして紹介するか、地元の人でさえ知らないことを紹介できてこそ、情報媒体としての価値を読者に認められてもらえると思っているので、取材は現地で徹底的に行なっています。ある方に取材のノウハウをお話したら、「それはまるで刑事のようだね。」と言われるくらい、現場での情報収集を重視しています。

鎌倉町ウォーカー  
2013年12月13日発売  
沿線：JR総武線、地下鉄半蔵門線  
川崎駅ウォーカー  
2013年12月20日発売予定  
沿線：JR東海道線、JR京浜東北線、JR南武線、京急本線、京急大師線



「角川マガジンス ブランドカンパニー」URL  
<http://www.kadokawa-mg.co.jp/>

## 名作探訪 第10回 「電撃文庫」創刊20周年＜Changing Times, Changing Publishing＞

「その特異な故に、この存在は、かつて文庫が初めて出版世界に登場したときと、同じ戸惑いを読書人に与えるかも知れない。しかし、＜Changing Times, Changing Publishing＞、時代は変わって、出版も変わる。時を重ねるなかで、精神の糧として、心の一隅を占めるものとして、次なる文化の担い手の若者たちに確かな評価を得られると信じて、ここに「電撃文庫」を出版する!」（＜電撃文庫創刊に際して＞より一部抜粋。1993年6月10日）

新しい時代を生きる若者たちに斬新な作品を文庫本として提供したいと考えていた角川歴彦会長が20年前「電撃文庫」創刊にあたり巻末に記した言葉です。

創刊時は「漂流伝説 クリスタニア 1」（著者 水野良）をはじめ4タイトルでのスタートでしたが、次第に毎月の刊行点数も増えヒット作やメディアミックス作品を輩出。2004年10月「キノの旅Ⅷ the Beautiful World」で通算1,000タイトル、2010年9月「ゴールデンタイム1 春にしてブラックアウト」で通算2,000タイトルを突破。現在、

通算2,650タイトル、総製作部数も1億6,000万部を超える（2013年11月現在）エンターテインメントノベルのトップレーベルとなりました。

創刊当時から新人作家の発掘にも力を入れています。エンターテインメント界最大規模の新人公募企画である「電撃大賞」は、1993年に創設された「電撃ゲーム3大賞」としてスタート、第12回より「電撃大賞」に改称されました。ここ数年は毎年応募数の記録更新が続き、第20回（2012年度募集）は史上最多の7,523作品の応募をいただきました。

「電撃大賞」からデビューした作家による作品は、小説からコミック・アニメ・実写と様々な舞台に広がっています。第17回からは小説部門に「メディアワークス文庫賞」を設置。本年9月には「電撃大賞」に「電撃コミック大賞」が新設され、「電撃小説大賞」「電撃イラスト大賞」とともに次代を創造するエンターティナーの発掘・育成の場としてさらにフィールドを拡大しています。

